

コロナに負けるな！ことばあそびで頭をうごかそう！

伊丹ことばあそび大会

日本人は昔から身近な“ことば”を使って、色々な“あそび”をしてきました。それら「ことばあそび」が今でも私たちを楽しませてくれるのは、日本語の特徴をうまく使った面白さがあるからです。

ラストホールでは、「ことばあそび」を実際に作り、さらにその歴史を学ぶ「伊丹ことばあそび大会」を行っています。

今回は最近 3 年間分の「ことばあそび大会」のテーマと各年の入選作品を紹介します。まずテーマを見て、オリジナル作品を作ってみましょう。それから入選作品を見ていただくより楽しい頭の体操になると思います。（※現在は作品の募集は行っていません）

令和元年度のテーマは「三段なぞ」。

三段なぞとは、テレビ等でもおなじみの「〇〇とかけて、△△と解く。その心は□□」ということばあそびです。

例えば、題を「伊丹」とした場合、

「伊丹」とかけて、「備長炭」と解く。その心は「すみ（住み／炭）よい」となります。

三段なぞのお題は次の①から⑥です。

①「伊丹」、②「有岡」、③「昆陽」、④「昆虫」、⑤「和泉式部」、⑥「鬼貫」です。さあやってみましょう！

平成 30 年度のテーマは「折句題」。

折句題とは、和歌や俳句の各句の頭に、特定の文字（音）を置いて詠むものです。今回は折句題を俳句や川柳と同じ「5・7・5」の形式で作っていただきます。

例えば、その各句の頭3文字を「あやめ」とした場合、「あめのひは／やねからもれて／めいわくだ」（雨の日は／屋根から漏れて／迷惑だ）となります。

折句題のお題（「5・7・5」のそれぞれの最初の文字）は次の①から⑥です。

①「あ・や・め」、②「す・み・れ」、③「つ・く・し」、④「き・つ・ね」、⑤「コ・ア・ラ」、⑥「た・ぬ・き」です。さあやってみましょう！

平成 29 年度のテーマは「回文」。

回文とは、上から読んでも下から読んでも意味の通った、同じ読みをすることばのことです。伊丹が酒造りで栄えた江戸時代の有名な回文に「伊丹の酒今朝呑みたい（いたみのさけけさのみたい）」というものがあります。

回文のお題は色の名が入った回文です。例えば白を使うと「色白い（いろしろい）」という作品ができます。さあやってみましょう！

伊丹ことばあそび大会のテーマ出題、応募作品の審査、そして講演会を担当して頂いているのは大阪教育大学教授（文学博士）の小野恭靖先生です。小野先生は主に日本歌謡史や芸能史、演劇史のほか日本中世・近世文学、そしてことばあそびの史的研究、室町小歌（流行り歌）の研究などに取り組んでおられ、関連する多数の著書も執筆されています。ラストホールでは平成 21 年度より講座やイベントなどでお世話になっている人気講師です。